

科目名	日本文化史			科目コード	0222
開講学科	共通専門科目	単位数	4	形態	講義
教員名	齋藤朋子				
授業の目的及びテーマ					
芸術文化を広い視野で歴史的に考察し、未来への指針として考えることを目的とする。日本文化は各時代において外来文化を受容し、変化を加えて形成されてきた。中世以降に禅宗と共に導入され、その影響を抜きにしては考えられない「茶」を媒体とした日本文化の特質について考察する。					
授業概要					
日本文化が形成された過程を追いながら、その形成要因を考察していく。まず文字を知ることによって認識された日本文化は、仏教の受容において拠点となる寺院建築に外来の技術や人材を導入した。また禅宗の儀礼であった茶は武家社会の生活規範に取り込まれ、非日常の世界としての茶の湯が始まる。戦国武将は軍事力を背景に唐物の名物茶器をやり取りした。一方で上層町衆の本阿弥光悦らを中心に茶の湯の交流を通して新しい芸術が創造された。明治時代以降、財を成した実業家らは茶数寄者として美術品を蒐集し、日本的な特徴を持つ美術館が誕生した。明治政府の政策が招いた日本美術の荒廃と文化財の海外流出、フェノロサの日本での活動と美術品蒐集の問題点。岡倉天心が著した『茶の本』は是非とも読んでほしい。 この授業は日本文化の特質を考察すると共に、今後の新しい芸術文化支援の方法を探る手立てでもある。					
授業計画					
第 1 回：日本文化への導入 日本文化とは 外来文化の導入―仏教公伝と寺の建立／中国文化の受容と和風への変化／ 伝統とは／「茶」を媒体とした日本文化の特質 第 2 回：茶の歴史 中国における茶／最澄をとおして日本へ／禅宗と茶／闘茶／書院茶／茶の湯の始まり 第 3 回：武将たちの企み ― 茶への執着と争い 堺と茶／織田信長と茶／豊臣秀吉と千利休と茶／朝鮮侵略／九州の諸窯 第 4 回：統合されていく試み 徳川家康と茶／古田織部と本阿弥光悦／本阿弥光悦と俵屋宗達と角倉素庵／ 茶の湯の交流と新しい芸術の創造 ―日本美形成の要因 第 5 回：整理されていく茶 大名茶／「道」と家元制／煎茶の流行／ 明治の茶／明治の茶数寄者／三十六歌仙絵巻／茶数寄者と私立美術館の誕生 第 6 回：日本人と茶 フェノロサとボストン美術館／文化財の海外流出／岡倉天心と『茶の本』／ 柳宗悦と「茶の美」					
テキスト	「日本文化史」北里桂一著 大阪芸術大学発行		参考文献	「茶の本」岡倉覚三 村岡博訳 岩波文庫 他 テキストに記載	
評価方法：					
通信授業は提出課題4件を以って評価する					